



楷

第三十五号

岡山大学
 附属図書館報
 OKAYAMA UNIVERSITY
 LIBRARY BULLETIN

KAI
 No.35
 2002
 OCTOBER

<写真>

温州橘 (うじゅきつ)

花實枝葉トモニ蜜柑ニ似タリ實
 蜜柑ヨリ大ニメ皮厚シ可食

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

— 目 次 —

- 鹿田分館と不易流行（鹿田分館長）..... p. 2
- 池田家文庫絵図の共同デジタル化事業を軸に動き出す官学共同のネットワーク
 （岡山県総合文化センター 森山光良）..... p. 4
- 新任一年目の感想（鹿田分館情報サービス係 藤原智孝）..... p. 6
- マスカット p. 7
 オリエンテーション・ガイダンス報告、池田家文庫等貴重資料展のお知らせ、
 文献複写依頼・文献貸借依頼サービス、教官寄贈図書、ほか
- 会議・研修・編集委員会から p.10

鹿田分館と不易流行

石津 日出雄

大学改革と電子情報化の中で、大学附属図書館は今転換期を迎えている。その中であって、附属図書館鹿田分館は、学内、いや鹿田キャンパス内においてさえ、現在その位置づけ（人員、予算を含めて）が不安定である。

昔はどうであったのか、鹿田分館の源流をたずねると、明治3年（1870年）岡山藩医学館文庫として発足したのを嚆矢としている。同医学館は岡山県医学校を経て、明治20年（1887年）第三高等中学校医学部となり、明治23年（1890年）に至って独立した図書掛が置かれている。大正11年（1922年）3月31日同校医学部は官立医科大学に昇格し、次いで大正15年（1926年）9月8日勅令第302号をもって附属図書館が設置され、生理学の生沼曹六教授が初代館長に補されている。

昭和2年（1927年）山上研究館および薬品庫を改造して学生閲覧室、職員閲覧室、目録索引室、新聞等縦覧室、事務室、書庫、その他を設け、名実共に岡山医科大学附属図書館としての陣容を整えている。しかし、未だ書庫が狭く全部の蔵書（4万7,114冊）を収容することができず、従来通り専門図書および雑誌の約半数を各教室に分散して保管している。

昭和6年（1931年）書庫（鉄筋コンクリート3階建、リフト付き、90坪）が完成し、続いて昭和7年（1932年）書庫に隣接して生化学教室栄養研究室（鉄筋コンクリート3階建て、300坪）が建築されたのを機にその2階以上を図書館として使用することになり、職員閲覧室40坪、書庫160坪を設けている。

昭和24年（1949年）7月15日新学制のもとに岡山大学に吸収され、岡山大学附属図書館医学部分館と呼称されるようになった。

昭和36年（1961年）岡山大学医学部創立100周年記念事業の一環として、医学図書館建設の議がおこり、米国チャイナ・メディカルボード、同窓生有志の寄付及び国費とにより、当時としては近代的な医学部図書館が完成し、昭和42年（1967年）7月10日開館し、全館オープンシステムを採用した。この年度末の蔵書数は13万9,994冊であった。

昭和54年（1979年）10月1日の歯学部の新設に伴い、昭和58年4月1日複合分館として医学部分館から鹿田分館と改称し、昭和62年（1987年）4月から医療技術短期大学部の図書業務も扱っている。

昭和63年度末の蔵書は、21万8,055冊であるが、医・歯学系を主体に広く境界領域を含めるものとなっている。業務の方では、学術情報サービスに特に力を注ぎ、必要な二次資料を整備し、学内未所蔵の文献も世界各国の図書館に依頼し入手するようにしている。昭和55年10月からオンライン情報検索サービスを開始し、セミナーなどにより学生・研究生を対象に二次資料及びオンライン情報検索の利用法の指導を行っている。業務も次々と電算化され、利用者サービスの改善も進めてきた。

平成12年6月教職員・大学院生・研究生を対象にカードキーによる24時間開館を開始し、平成13年11月からは学部学生を対象を広げた（但し、学生は9時から24時迄）。平成13年度の集計では利用者サービスの中、文献複写10,913件、相互協力受付6,824件、参考調査11,000件である。現在蔵書は和漢書13万610冊、洋書14万7,375冊で計27万7,985冊に達している（平成14年5月1日）。

鹿田分館では、古い医学書を主体として、理学書、オランダ語医書その他の和書等から成る特殊文庫3,982点を収蔵していることにも触れておきたい。この内①岡山藩医学館、これを引き継いだ岡山県病院、岡山県公立病院、岡山県医学校で購入し、使用された書籍、②倉敷の蘭方医妹尾又玄の旧蔵書、③美濃国の蘭方医田口鳳介の旧蔵書、④都窪郡久米（現、総社市）の蘭方医山田成器の旧蔵書、⑤岡山市赤沢乾一の旧蔵書を主として整理して、昭和62年3月に岡山大学「古医書集成」目録として編集し、公共利用に供している。

不易流行という言葉がある。本来は松尾芭蕉が唱えた俳諧の理念である。「不易」とは永遠に変わらない本質であり、「流行」はその時々の様相である。しかし、不易と流行は根本で一つになるべきと唱えた。流行として図書館の電子情報化時代への適応は必然のこととして、岡山大学附属図書館は21世紀の岡山大学構想に従って変わらねばならない運命にあると思われる。部局間のボーダレス化、バリアフリー化、全学共用施設化が唱えられている。まったくその通りであると思う。しかし、図書館の場合、地理的条件、図書館が主としてサービスの対象としている学生、大学院生、教職員などとの関係を軽視することはできない。鹿田分館が不易の部分として保持していかなければならないのは何か。やはりその生い立ちが示す如く、医学・歯学を中心とし、その周辺科学を含めた複合図書館として、学生や研究者を支援し続けていくことである。また、中国四国地区の医歯（薬）学系の中核的拠点図書館としての機能を保持強化していかなければならない。今や病気は医療側と患者側が力を合わせて治す時代となった。それには、患者や家族も病気や薬に対する知識と、医師や薬剤師の説明を正しく理解しうる基礎的素養が要求される。附属病院を有するキャンパスの図書館としては、患者や家族への医療情報を提供するというサービスも行うのが望ましい姿であろう。専門書ばかりでなく、一般市民が読んでも分かる医学書やビデオ、CD-ROMなども備える必要がある。

本誌No. 33に前鹿田分館情報管理係長中島茂樹氏が「鹿田分館の今後の課題」と題して、鹿田分館の抱えている悩みを訴えてくれている。現状はその通りであり、将来の構想もこの悩みの解消に尽きるものと考えている。私としては、将来薬学部が鹿田キャンパスへ移転して来て、医歯薬学を融合した生命科学系大学院が誕生した暁には、鹿田分館という地名以外に何ら特色を示さない呼称は改めて頂いた方が良く考える。医歯薬学系図書館として、そのアイデンティティを示す格好良いネーミングを公募するのも、関心呼んで良いかも知れない。

鹿田分館には1870年以来時を越えて変わらぬ不易の使命があり、その使命達成の為に職員一同全力を尽くして努力している。関係各位のご理解とご支援ご協力を心よりお願い申し上げます次第である。

(いしづ・ひでお 鹿田分館長)

池田家文庫絵図の共同デジタル化事業を 軸に動き出す官学共同のネットワーク

森 山 光 良

池田家文庫絵図の共同デジタル化事業が、岡山大学附属図書館、岡山県総合文化センター、および岡山市によって現在進められています。ここでは、事業に関与する機会に恵まれた岡山県総合文化センター担当者の立場から、事業の現在と将来を紹介します。

1. そのあらし

ご存知のように、岡山大学附属図書館が所蔵する池田家文庫は、岡山が全国に誇る第一級歴史的資料、文化財で、郷土岡山の歴史を語る上で欠かすことはできません。研究者による数多くの研究成果も生まれています。このうち、絵図は史実解明的側面のみならず、美術的価値も高く、ちょっとした古地図ブームの現在、素人鑑賞者の眼も楽しませてくれる側面を持ちます。しかし、第一級の貴重書であるが故に、これまで門外不出で一般にはなじみが薄かったとも言えるでしょう。

こうした状況は、池田家文庫絵図の共同デジタル化事業の開始により、一変しようとしています。今年度、現物を所蔵する岡山大学附属図書館が、岡山県総合文化センター、および岡山市と、それぞれ個別合意したことにより、共同デジタル化事業が開始されました。池田家文庫絵図を接点に、岡山大学、岡山県、岡山市という岡山県内の存立基盤の異なる独立組織が官学共同のネットワークを構築したことになります。共同デジタル化事業、共同配信という、全国に例を見ない画期的な取り組みです。インターネットで公開され、いつでもどこでも誰でも利用できる、ユビキタス対応が今整おうとしています。

2. 意外と難しいデジタル化とその提供

岡山大学附属図書館は、池田家文庫の重要性に着目し、早くからそのデジタル化に努めてきました。

デジタル化ぐらい、市販のデジカメやスキャナで手軽にできるじゃないかと考えられるかもしれませんが、作成から数百年の歴史を経た資料は、光を長時間当てずに撮影する等、損傷しないよう細心の注意を要します。

また、できるだけ原型に近い姿で提供する技術が求められます。たとえば、数十メートル四方の絵図については、櫓を組んで歪みなく撮影するとともに、多くの画像を継ぎ目なく寄木細工のように組み合わせて提供するため、独特の手法が用いられます。

さらに、デジタル化した画像を貼り付けた Web ページを作れば情報提供は終わりというものでもありません。たとえば、一つの絵図の全体と部分を拡大、縮小が手軽にできる仕組みや、歴史の門外漢でもわかるよう、読み下し文や解説等の情報を付加することも必要になってきます。

こうした高品質、かつ手間のかかる作業を数万点に及ぶ資料について行わなければなりません。つまり、専門技術、資金および地道な作業なくして、また、外部の組織や協力者とのネットワークなくして、真に利用価値のあるものを提供することはできないのです。

3. 各組織が工夫を凝らす提供方法

現在、岡山大学附属図書館と岡山県総合文化センターは、インターネット上で池田家文庫絵図全体を統合提供する仕組みの構築に共同で取り組んでいます。今後、各組織はその成果を共有し、各組織が作成する他のコンテンツと絡めて、オリジナル・サイトをそれぞれ構築していく予定です。

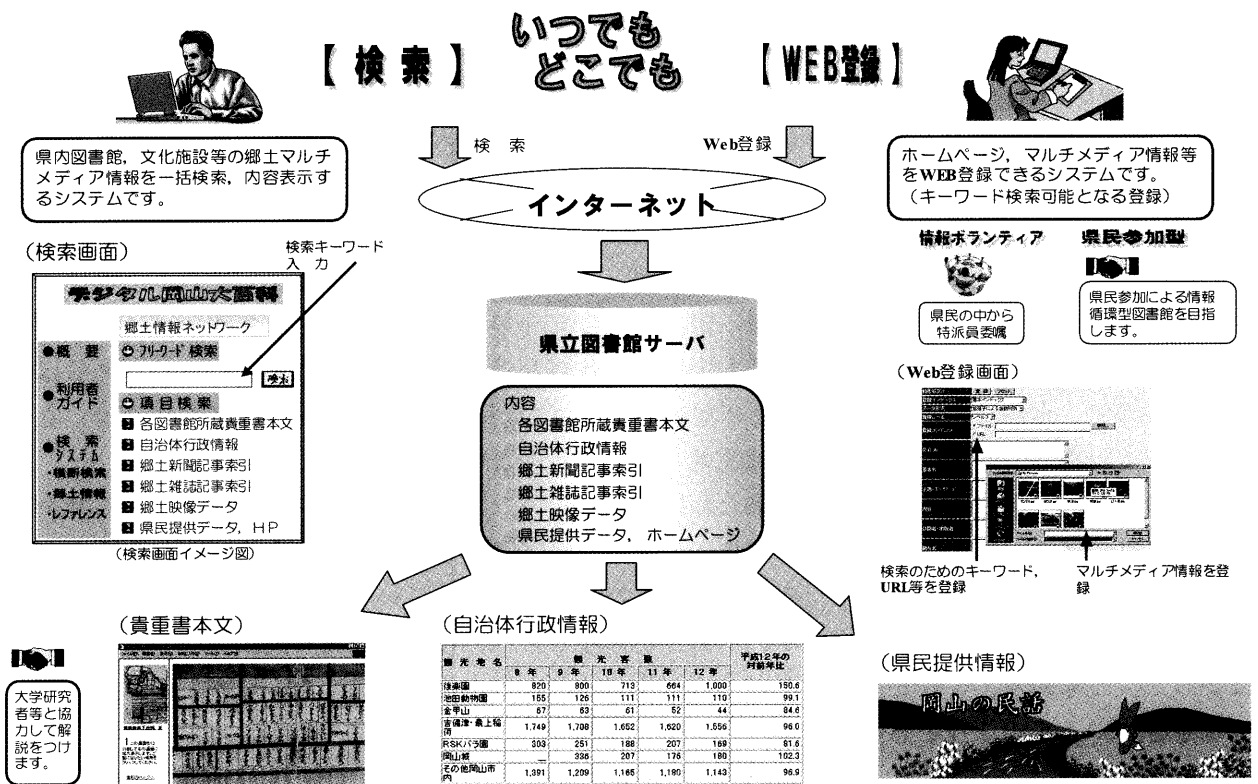
たとえば、岡山大学附属図書館はより研究的色彩の強いサイトを構築することを目指し、岡山市はデジタル・ミュージアムの枠組みでサイトを構築することを目指します。

他方、岡山県総合文化センターは、その成果を、平成16年完成の「デジタル岡山大百科—郷土情報ネットワーク」のシステムの中で提供する予定です。これは、郷土岡山に関するWebページや、音声、動画等のマルチメディア情報を網羅的に提供するシステムです。価値ある情報の蓄積過程で、県民も参加できる仕組みも構想しています。

池田家文庫の長い歴史に今新たな一ページが加わろうとしています。

(もりやま・みつよし 岡山県総合文化センター整理課)

ネットでも デジタル岡山大百科 郷土情報ネットワーク ネットでも



新任一年目の感想

藤原智孝

僕が大阪から岡山大学の図書館に来てもうすぐ一年になる。その一年目の感想を書けと言うことなので、ここに書く次第である。

実際のところ、岡山大学に就職が決まるまでは、岡山には一度も来たことが無かったし、通り過ぎたことすら無かった。もちろん岡山大学自体もまるで知らない状況である。それが、就職が決まるとすぐに寮に入ることになり、それから半月も経たずに岡山在住である。岡山に慣れるとか馴染むとか言う前に仕事が始まり、寮が岡山大学津島キャンパスのすぐ裏手にあったので通勤が楽でいいや、と思っていたら医学部キャンパスの鹿田分館に配属になっていた。初日から、「自転車無いがな、どうやって通えばええねん？」ということになり、バタバタだったことを覚えている。

係長に連れられて初めて足を踏み入れた鹿田分館は、えらく年季が入ってるなあ、という印象で、しかもそれくらいしか覚えていない。鹿田分館での僕の仕事は、とにかくカウンターにいるというものだった。本当に、一日中カウンターにいるのである。もちろん毎日。これにも少し驚いた。交代でカウンターに入るものかと思っていたので。確か、採用面接の時に、「カウンター業務がやりたい」と言ったような気がするのだが、望むところだったとはいえ、えらく極端だなあ、という気もした。ただ、そんなこんなでビックリしながらもやってみると、特に何ということもなくて、カウンターでの仕事は気に入っている。いろいろな人が来るし、それを見ているだけでも飽きない。また、図書館の仕事としてわかりやすいということもあり、違和感なく仕事に入ることができた。

僕の仕事として、貸出返却・簡単な質問に対する回答などのカウンター業務の他、毎月の貸出返却冊数や入館者数などの各種統計の作成、鹿田地区の研究室から図書館へ返却されてくる資料の処理、破損した資料の修理や時間外利用関係の管理、夜間のアルバイトの管理などがあり、係長や他の職員の力もお借りしながらやっている。働き出して約一年で、ようやく慣れてきたような気がしている。仕事自体は肉体労働というよりも事務的な仕事がほとんどで、僕は体力に自信があるほうでは無いので、良かった。10月からは2年目になるわけだが、今後は一年目の反省も含めて、もっと効率よく、また、改善できるところは改善していかないといけないと思っている。

岡山のことなど何も知らず大阪から来たわけだが、この一年間大したトラブルもなく過ごせたのはとても良かった。地元の大阪や、その他の土地の大学図書館に行くことになる可能性もあったのだが、最終的に岡山大学に決まったのは幸運だったと今では思っている。こういうと、最初は不満に思っていたのか、と思われそうだが、不満とか満足とか言えるほど岡山と岡山大学のことを知らなかった。ともあれ、これからも、というほど先のことなどまだ全然見えないけれど、できる限り一生懸命にやっっていこうと思っている。

(ふじわら・ともたか 鹿田分館情報サービス係)

マスカット

新入生オリエンテーション（中央館）

新入生に向けて、基本的な図書館の利用方法を習得していただくためのオリエンテーションを実施しました。また、今年も二部の学生向けに、夜間のオリエンテーションも実施しました。

実施日程：4月9日(火)～6月14日(金)

(当初の募集期間は5月31日まで。土・日曜日、休館日は除く)

内 容：・図書館の基本的な利用についての案内

- ・インターネットによる学内の図書・雑誌の検索（OPACデモンストレーション）
- ・館内ツアー

実施回数：個人参加（13回） 授業・ゼミ単位（47回 うち夜間5回）

参加人数：個人参加（238人） 授業・ゼミ単位（1,104人）

オリエンテーション・ガイダンス（鹿田分館）

学部等から依頼を受け、次の利用案内等を実施しました。

<4月>

医学部医学科新入生オリエンテーションにて 利用案内

医学部保健学科新入生オリエンテーションにて 利用案内

順正高等看護専門学校オリエンテーションにて 利用案内・館内ツアー

歯学部早期見学実習にて 館内ツアー

医歯学総合研究科講義にて 文献検索・利用案内

<5月>

看護学専攻2回生・4回生図書館文献検索ガイダンスにて 文献検索

オリエンテーション・ガイダンス（資源生物科学研究所分館）

大学院自然科学研究科新入生（4/10）、農学部新入生（5/20, 27, 6/3）に対し、史料館内の見学や、図書館の利用方法についてのオリエンテーションを実施しました。

平成13年度遡及入力結果報告

平成13年度も教育・研究プロジェクト経費で、48,205冊を入力しました。これで、中央館図書目録データベース遡及入力第1次4ヵ年計画を終了し、平成10年度～平成13年度で総計236,920冊を入力しました。

第1次4ヵ年計画での入力目標冊数は358,000冊であり、その66%の入力しかできなかったため、第2次の4ヵ年計画を、中央館図書目録データベース遡及入力第2次6ヵ年計画と改め、図書館内に現有している図書及び研究室から返却されると予想される図書の合計254,000冊の入力を完了させる計画を立案し、平成14年度第1回の附属図書館運営委員会です承をいただきました。

池田家文庫等貴重資料展のお知らせ

図書館では、今年も池田家文庫等貴重資料展を開催します。テーマは、「ひらけゆく岡山平野～岡山藩の新田開発(1)～」です。開催期間は平成14年10月23日(水)～11月1日(金)の10時から16時までで、土・日曜日もおいでいただけます。また、開催期間中の10月26日(土)14時から、本学環境理工学部環境デザイン工学科の名合教授による「津田永忠と岡山藩の土木事業」と題した講演会も予定しています。

文献複写依頼・文献貸借依頼サービス

津島・鹿田・倉敷地区の教職員および大学院生を対象に、インターネット経由で研究室から申し込みが出来るようになりました。校費のみの取り扱いですので、予算を持たない教職員および大学院生は予算責任者の許可が必要になります。

図書館ホームページから、利用申請書を入手して手続きをし、パスワードを取得します。利用承認通知がお手元に届きましたらご利用ください。詳細は図書館ホームページをご覧ください。

平成14年度目録システム地域講習会

国立情報学研究所と岡山大学附属図書館との共催で毎年開催していた目録システム地域講習会も、昨年度より、中国四国地区で1箇所の開催となり、昨年度は岡山大学で、今年度は愛媛大学(8月21日～8月23日)で開催されました。

当館から、講師として、森谷事務官が参加しました。

平成14年度の教養教育科目授業への協力

平成10年度から始まった授業も今回で5年目となりました。インターネットを使っての情報収集の仕方、雑誌記事・朝日新聞記事の検索方法、図書の所蔵調査等具体的なデータベースへのアクセスの仕方および検索方法の説明等行いました。

教官からの寄贈図書リスト

次の方々から著書を寄贈いただきました。ありがとうございます。今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

<中央館>

赤川 学 [文]

セクシュアリティの歴史社会学——勁草書房, 1999 (367.9/A)

井口文男 [法]

憲法——有信堂高文社, 2002 (323.14/I)

倉地克直 [文]

近世日本人は朝鮮をどうみていたか: 「鎖国」のなかの「異人」たち——角川書店, 2001 (L210.5/K) (210.5/K)

佐伯民江 [文]

国際理解の魅力: 34歳からの外国語 改訂版——近代文藝社, 2002 (377.6/S)

清水清弘 [名]

Studien zum deutschen Stil——Literarischen Fakultät der Universität Okayama, 2002 (845/S)

高橋輝和 [文]

シーボルトと宇田川榕菴：江戸蘭学交遊記——平凡社, 2002 (402.105/U)

中谷ひとみ [文]

Erotic metafiction/metafictional eroticism : John Hawkes and neo-Gothic metafiction——School of Letters, Okayama University, 2002 (939.02/H)

永松朝文 (共著) [薬]

ヘテロ環の化学：医薬品の基礎——化学同人, 2002 (438.9/H)

<鹿田分館>

太田にわ (編著) [医]

病いの子どもと親が癒されるケア——西日本法規出版, 2001 (N440/OU)

岡山大学歯学部附属病院 (編) [歯病]

岡山大学歯学部附属病院医薬品集 第5版——岡山大学歯学部附属病院薬事委員会, 2002 (S499/OK)

吉良尚平 (主任研究者) [大医歯]

健康づくりセンター等を活用した生活習慣病予防の地域連携ネットワークの形成：厚生科学研究研究費補助金健康科学総合研究事業 平成13年度総括・分担報告書——2002 (498/KE)

平木祥夫 [大医歯]

臨床核医学：私たちはこう使う：診断フローチャート付 (編著)——メジカルセンス, 2002 (493.1/HI)

症例に学ぶ核医学画像アトラス (監修)——自然科学社, 2001 (493.1/SH)

山本秀樹 [大医歯]

地理情報システムを活用した熱帯病対策に関する研究：長崎大学熱帯医学研究所研究集会報告書 (論文掲載)——長崎大学熱帯医学研究所, 2001 (498.4/CH)

熱帯性感染症対策に影響を及ぼす開発・環境・文化要因 (論文掲載)——長崎大学熱帯医学研究所, 2001 (498.4/NE)

<資源生物科学研究所分館>

木村和義 [名]

木村和義博士研究業績集——岡山大学資源生物科学研究所環境適応解析分野, 2001 (136/629)

少年時代は戦中戦後だった——西日本法規出版, 2000 (651/34)

(敬称略五十音順)

会議

◆学外

14. 4.25～ 4.26 第50回中国四国地区大学図書館協議会総会及び第29回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（於 高知第一ホテル）
・国立大学法人化への移行に向けての体制づくり、他
- 5.23 岡山県大学図書館協議会第15回研修委員会（於 山陽学園大学図書館）
・平成14年度研修事業について
- 5.23～ 5.24 第73回日本医学図書館協会総会（於 南海放送本町会館,松山市）
・電子環境下におけるコレクション・ディベロップメント、他
- 5.30 平成14年度岡山県図書館協会第1回理事会（於 岡山県総合文化センター）
・平成13年度事業報告、収支決算報告について、他
- 6.21 岡山県大学図書館協議会総会（於 山陽大学図書館）
・相互協力状況について
- 6.24 平成14年度岡山県図書館協会総会（於 岡山県総合文化センター）
・平成13年度事業報告、収支決算報告について、他
- 6.26～ 6.27 第49回国立大学図書館協議会総会（於 鳥取県立県民文化会館）
・平成14年度事業計画について、他
- 7.12 岡山県大学図書館協議会第16回研修委員会（於 岡山商科大学図書館）
・平成14年度研修事業について

◆学内

14. 3.20 平成13年度第3回附属図書館運営委員会
- 6.12 平成14年度第1回資源生物科学研究所分館運営委員会
14. 7. 9 平成14年度第1回附属図書館運営委員会
- 7.10 平成14年度第1回鹿田分館運営委員会
- 8.28 平成14年度第2回附属図書館運営委員会

研修

- ・平成14年度（前期）岡山大学職員研修（放送大学科目履修コース）
参加者 大元利彦（4.10～8.3）
- ・平成14年度第1回岡山大会計（簿記）研修
参加者 木地寛子（5.16～ 8.1）
- ・平成14年度目録システム地域講習会（図書コース）
参加者 四方幹子（8.21～ 8.23）

編集委員会から

「楷」第35号をお届けします。今号では、鹿田分館長の石津日出雄教授の「鹿田分館と不易流行」、岡山県総合文化センターの森山様の「池田家文庫絵図の共同デジタル化事業を軸に動き出す官学共同のネットワーク」、鹿田分館の藤原さんの「新任一年目の感想」を掲載しました。

ところで、今年の夏は例年に比べて特に暑い日が多かったように思います。私達の生活環境だけでなく、大学及び図書館を取り巻く情勢も、ヒト・カネ・モノの全ての面で、更に厳しさを増しています。その中で、学内外の利用者に対して、より良いサービスを求められる図書館は、非常に難しい立場にあると言えます。この状況は、図書館の工夫・努力と、そして何よりも学内の皆様のご理解・ご協力がなければ乗り越えられない…。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.35 平成14年10月1日

発行人 仲野憲一 編集 広報委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086-252-1111

ホームページURL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>